

第六講 ポリスの形成

MGII 期から LGI 期にかけての変化

- (1) 農村部における新しい集落の急増
- (2) 規模は小さい
- (3) 既存の集落の反動
- (4) 英雄崇拜（墓所崇拜）の導入
- (5) 新しい入植との意図的な差別化：
 - 英雄時代にまで遡る自己の歴史的古さを誇示し、その重要性を強調
- (6) 中心市アテナイに対する独自性の自己主張：
 - アテナイとの繋がりを否定し、自生的起源を強調
- (7) この動きを主導したのは奉納物の質及び量から見て、一介の農民ではありえず、貴族（豪族）であったに違いない
- (8) アクロポリス、アカデメイア、エレウシス、ブラウロンの聖所建設：
 - 宗教的拘束力によって、今尚不安定な政治的統合を補強しようとする試み
- (9) 国家守護神崇拜の中心地建設は初期国家建設の鍵となる重要性を演じていた：
 - アルゴス・サモス・コリントス：ヘラ女神
 - スパルタ：アルテミス女神
 - アテナイ：アテナ女神
- (10) 神殿への奉納物の質的向上と量的増大：
 - 個々人の墓への副葬品の抑制
 - 個人的な富の顕示から集団的結束へ
- (11) アテナイの特殊性：
 - a) 他のポリスとは異なり、アクロポリスの神殿は貧弱
 - b) 前 6 世紀までは貧弱
 - c) 墓の厚葬化
 - 貴族の意識的競合と差別化

- クローロス像・金属製の骨壺・火葬の儀式化
- d) 貴族層の選良化による血縁制度への意識的強調
ゲノス・フラトリア・フュレ
 - e) 非貴族層の排除
極端な貴族政